

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370083

研究課題名(和文) 幸福と時間性に関する比較思想史的研究

研究課題名(英文) Happiness and Time in the Comparative History of Thought

研究代表者

森川 輝一 (Morikawa, Terukazu)

京都大学・公共政策連携研究部・教授

研究者番号：40340286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究課題について、各メンバーが様々な分野の学会で研究発表を行なったほか、仏教学、社会心理学、古代ギリシア思想の研究者を研究協力者として招き、意見交換を実施した。また、それぞれのメンバーが研究課題についての論文や著書を刊行した。代表的なものとして、宮野真生子『なぜ、私たちは恋をして生きるのか』(ナカニシヤ出版、2014年)、森川輝一他『政治概念の歴史的展開・第八巻』(晃洋書房、2015年)が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：Every member made presentations in various academic conferences, and we organized round-tables on "Happiness and Time" with researchers of Buddhist thought, social psychology and ancient Greek philosophy. Our publications on this research topic include Makiko Miyano's Why We Fall in Love (Kyoto, Nakanishiya Shuppan, 2014) and Terukazu Morikawa (et al.)'s Historical Development of Political Concepts (Kyoto, Koyo Shobo, 2015).

研究分野：政治思想史

キーワード：幸福 時間性 比較思想史

1. 研究開始当初の背景

近年、心理学や経済学などを中心に、人々の主観的な幸福感の測定をめざす学際的な研究がさかんになり、その成果を政策決定に活用する試みも始まっている。たとえば我が国では、内閣府経済社会総合研究所「幸福度に関する研究会」によって、国民の「主観的幸福感」を測定するための「幸福度指標試案」が作成されている(平成22年)。だが、幸福を「主観的」でありながら測定可能な「幸福感」として扱うとき、幸福の内実(幸福とは何か)はどのように捉えられているのであろうか。幸福を意味する英語“happy”が“happen”に由来するように、幸福とは偶然訪れるものではないか。この「偶然」を刹那的として捉えるのか、過去から未来への時間の中で訪れ得る可能性として捉えるのか。あるいは、他者と居合わせる場において共にその出来を目指し待つ僥倖と捉えるのか。このように、幸福を時間性という観点から問い直すことが、幸福という概念の厚みと広がりを取り逃すことなく哲学的探究を進める上で必須の課題である、と考えられた。

2. 研究の目的

1の研究開始当初の背景にもとづき、幸福をめぐる既存の論争枠組みを、時間性という視座のもとで吟味する作業が必要であるという問題意識のもと、西洋哲学の思想的伝統をはじめとする多様な思想的伝統の中で展開された幸福論に関する比較思想史的研究を行なうことが有効であると考えられた。そこで、本研究は、政治思想、近代西欧思想、日本思想、中国思想、宗教思想を主たる軸と位置づけ、それらの共通性と差異を明確にすることを通じて、現在という指標に偏重しがちな幸福概念を批判的に問い直し、多様な時間性の観点から幸福概念の多層性を捉えることを目指した。換言すれば、本研究では、幸福をめぐる比較思想史的研究を通じて、昨今隆盛を極める心理学等の実証的手法による幸福研究では扱い切れない幸福の側面、あるいは、そうした実証的手法が暗黙のうちに前提している特定の幸福概念の枠組みを明らかにしつつ、新たな幸福の哲学の構築に寄与することが企図された。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、政治思想、近代西欧思想、日本思想、中国思想、宗教思想という五つの思想領域において、幸福と時間性という問題がどのように考えられてきたかを明らかにし、相互に比較検討するために、五つのグループを編成して研究を進めた。

(2) 政治思想領域：幸福を「状態」ではなく「活動態」と捉えるアリストテレスの実践的な政治概念が、現代政治思想に大きな影響

を与えることに着目し、政治的な実践の時間的プロセスの中で幸福がどのように捉えられるのかを明らかにしつつ、幸福をめぐる時間の多層性という視座から未来にも目を向け、政治における未来の他者の幸福に対する責任のありようを把握することを試みた。

(3) 近代西欧思想領域：近代西欧において、良心の自由と多様な価値の平和的共存を基礎づける原理として漸次形成された寛容概念に着目し、寛容と幸福の思想的関係を明らかにすることを試みた。また、産業革命に伴う社会構造の変化を背景に浮上した「富と徳」問題を、幸福と時間性という観点から読み解き、信用に基づく富の蓄積が国富として公益につながるといった新たな幸福観を、功利主義への影響を視野に入れつつ検討した。

(4) 日本思想領域：日本では伝統的に、幸福の基盤は、過去から未来へと連続と続くものとしての家に置かれていたが、近代化に伴う家の変質を契機に、時間の連続性への信頼が急速に崩れ、幸福は瞬間の充実として求められるようになった。個人が他者との偶然的な出会いのなかでいかに生き未来を目指し得るのか、という問いに向き合った京都学派の思索や近代日本文学を検討し、瞬間にとどまらぬ幸福のあり方の捉え直しを行った。

(5) 中国思想領域：中国の思想伝統における、吉凶禍福は運命や偶然によるのではなく、森羅万象を貫く自然法則に従い、禍福は事物・事象間の相互関係より生起するという物類相感説を検討し、中国の占術における幸福の内実について、特に人の相貌から禍福を判断する相術の書を、陰陽、五行、八卦等の時間概念を内包した操作概念との関連で分析し、中国の思想伝統における幸福論の構造を考察した。

(6) 宗教思想領域：誰もが幸福を目指すこの世界になぜ不幸があるのか、という問いは、世界を創造した神を想定する諸宗教においては神義論として、ヴォルテールやルソー等のヨーロッパ啓蒙思想家を中心に論じられてきた。そこにおける、終末における不幸な生の救済、という救済論の時間的構造を視野に入れつつ、人間的な時間とは異なる時間性から幸福を捉える宗教思想を検討し、幸福概念の背後にある不幸な生という実存的次元を明らかにすることを目指した。

4. 研究成果

(1) 各領域ごとに、以下のような研究成果が得られた(その成果は、各グループ所属のメンバーの論文、著書、学会報告等をつうじて発表されている)。

(2) 政治思想領域：幸福と時間性という観

点から政治思想の歴史を検討し、恒常的自然との一致・調和、現在という瞬間における欲望充足の反復、完了時制で語られる人生航路の自己肯定、という三つの幸福概念が析出され、現代における主要な幸福観が基本的に第二の幸福観に棹差すことが、市場経済のグローバル化という状況下における政治的実践の自律性の喪失という現代政治思想喫緊の問題と関連付けて、明らかにされた。

(3) 近代西欧思想領域：ペールやヴォルテールらの近代寛容論の精査を通じて、幸福追求の自由と他者との共存という課題の本質的連関が解明され、また、ヒュームやスミスなどの18世紀英国思想において、人間共通の目的・完成としての幸福から、個人が社会のなかで個別に実現する幸福へと、幸福観そのものが展開を遂げたことが明らかにされた。

(4) 日本思想領域：人間の生と時間性をめぐる九鬼周造や田辺元の思索を、個人という新たな人間像を捉えようとする近代日本文学の苦闘や、ジンメルら同時代の西欧思想の展開との比較検討を交えて考察し、生の幸福を他者との偶然的な出会いに見出す思考の系譜が浮き彫りにされた。

(5) 中国思想領域：吉凶禍福を内面的な心のありように還元せず、生の時間のなかで人間が行う動態的な実践と相関的に捉える中国の相術思想の特質が、その近世日本への伝播ならびに独自の展開を含めて、明らかにされた。

(6) 宗教思想領域：キリスト教思想における神義論を検討し、理不尽な不幸への抗議という契機が現実世界の变革の論理ともなり得ることを解明し、さらに、現世での幸福と来世での至福との区別を根本的に問い直し、その信仰構造がはらむ未来完了の契機に着目して、現世を生きる人間の希望として幸福を捉え直す理路が示された。

(7) 以上五つの領域の研究を通じて、本研究では、異なる思想領域における多様な幸福と時間性の捉え方が解明され、それらの比較検討を通じて、全体として以下のような成果が得られた。すなわち、幸福とは、第一に、現在(いま)における幸福感に集約されるものではなく、複数の時間性のなかで重層的に捉えられるべきものであること、また第二に、個人の主観的な感覚に留まるものではなく、自然や過去の記憶といった個人の意志では変更できない要素や、予期せざる未来や他者との邂逅という偶然性が交錯する地平において把握されるべきものであることが、明らかにされた。以上の成果は、近年の心理学的な幸福研究およびその政策的応用という動向に修正と再考を迫る意義を有していると

考えられる。なお、これらの研究成果は、『社会と倫理』第31号(南山大学社会倫理研究所)の特集「幸福論の諸相」として近日中に公表される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

佐藤 実、中国イスラーム哲学史研究の幕あけ、東方、査読無、387号、2013年、27-32頁

佐藤 啓介、神学者たちのキルケゴール 可能的なもの、そして不安と希望、現代思想、査読無、42巻2号、2014年、95-105頁

奥田 太郎、Commentary: Deliberation, Fair Outcome, and Empirical Evidence: An Analogy with Archives, *The Future of Bioethics: International Dialogues* (ed. by Akira Akabayashi, Oxford University Press), 査読無、2011年、pp.575-578

佐藤 啓介、あらゆる否定文は神によって取り憑かれている デリダ、マリオンの否定神学論争とその宗教哲学的意義、日本の神学、査読有、54巻、2015年

福島 清紀、相互的寛容への隘路 ピエール・ペール論覚書、言語と文化、査読無、12巻、2015年、207-242頁

森川 輝一、アーレントのソポクレス解釈 ハイデガーとの対向のなかで、法学論叢、査読無、176巻5・6号、2015年、208-235頁

宮野 真生子、恋愛という「宿痼」を生きる、nyx、査読無、2号、2015年、248-263頁

佐藤 啓介、苦しみの叫び声は何を求めているのか 神義論から宗教哲学へ、基督教学研究、査読無、35号、2016年

佐藤 実、心のありようによってかわる人相について、大妻比較文化、査読無、17号、2016年、19-33頁

福島 清紀、近代西欧における弁神論の形成と「最善説」批判 「悪」をめぐる問いと応答、言語と文化、査読無、13号、2016年、177-194頁

〔学会発表〕(計 6 件)

佐藤 啓介、ヨハネとアンリ キリスト教思想からみるアンリ、日本ミシェル・アンリ哲学会第5回学術大会シンポジウム「アン

「哲学とキリスト教」、2013年6月9日、関西学院大学梅田キャンパス、招待講演

佐藤 実、17世紀～18世紀の中国イスラーム漢籍にみえる女性観、中央大学経済研究所・ジェンダー研究会、2014年11月28日、中央大学多摩キャンパス

宮野 真生子、恋する身体 「いき」なふるまい、近代化中的『神話』：臺灣與日本()、2015年3月19日、国立台湾大学(中華民國台北市) 招待講演

奥田 太郎、排除なき薄い包摂を目指すシテイズンシップ教育の可能性 非臨床的臨床を試みる専門的素人としての哲学者の役割、日本哲学会第74回大会、2015年5月15日、上智大学、招待講演

福島 清紀、寛容思想研究の現代的意義 比較思想的考察の試み、法政哲学会第35回大会、2015年6月13日、法政大学、招待講演

森川 輝一、法と政治の間 空間をめぐるアーレントの省察、韓日政治思想学会・2015年度共同学会会議、2015年12月19日、成均館大学(大韓民国ソウル市) 招待講演

〔図書〕(計 4 件)

宮野 真生子、ナカニシヤ出版、なぜ、私たちは恋をして生きるのか：「出会い」と「恋愛」の近代日本精神史、2014年、238頁

奥田 太郎他、岩波書店、岩波講座 政治哲学2：啓蒙・改革・革命、2014年、260頁(奥田太郎担当部分 125-148頁)

森川 輝一他、晃洋書房、政治概念の歴史的展開・第八巻、2015年、228頁(森川担当部分 143-166頁)

宮野 真生子、佐藤 啓介他、ナカニシヤ出版、愛・性・家族の哲学 結婚は愛のあかし？、2016年、230頁(佐藤啓介担当部分 65-100頁、宮野真生子担当部分 171-205頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)
なし

取得状況(計0件)
なし

〔その他〕
特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森川 輝一(MORIKAWA, Terukazu)
京都大学・大学院公共政策連携研究部・教授
研究者番号：40340286

(2) 研究分担者

福島 清紀(FUKUSHIMA, Kiyonori)
富山国際大学・地域交流センター・客員教授
研究者番号：20228886

奥田 太郎(OKUDA, Taro)
南山大学・人文学部・准教授
研究者番号：20367725

佐藤 啓介(SATO, Keisuke)
南山大学・人文学部・准教授
研究者番号：30508528

宮野 真生子(MIYANO, Makiko)
福岡大学・人文学部・准教授
研究者番号：40580163

佐藤 実(SATO, Minoru)
大妻女子大学・比較文化学部・准教授
研究者番号：70447671

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者

新田 智道(NITTA, Tomomichi)
大谷大学・文学部・講師

福野 光輝(FUKUNO, Mitsuteru)
山形大学・人文学部・准教授

近藤 智彦(KONDO, Tomohiko)
北海道大学・文学部・准教授